

和の文化を受けつぐ（授業後ふりかえり）

- 目標
- (1) 筆者の和菓子についての叙述を基に、情報と情報の関係付けの仕方について理解することができる。
 - (2) 筆者の主張に至る理由を三つの観点（歴史・他文化との関わり・文化を支える人）から正確に捉えて、論の進め方について考えたり、複数の文章を重ね合わせて関係付けたりすることができる。
 - (3) 論の展開について気づいたことや複数の資料を重ねて読むことで分かったことを伝え合おうとする。

第二次



◎本文全体を一ページにまとめることで、段落どうしのつながりや論の進め方について考えることができた。

△読むことが苦手な児童にとっては、文字が多く抵抗感があったようである。

ポイント
筆者の論の進め方やそれぞれの段落の内容をおさえることで、第三次の学習につながる。

成果

ワークシートを工夫したり、文字以外の「かく」を取り入れたりしたことで、多くの児童が自分の考えを持とうすることができた。

単元の指導計画（全8時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）等
1	○学習の見通しをもつ。 ・題名（特に文化）について考え、自分の身の回りにどんなものがあるのかを書き出す。 ・全文を読み、感想を書いて出合う。 ・単元のめあてを知り、学習の見通しをもつ。	・ロイロノートのシンキングツール（「ウェビング」）を活用させる。 ・展覧を提示し、和菓子の何を説明した文章なのかを想像させる。 ・初読の感想では、自分の想像した内容との違いや、よく分からなかったことを出し合い、次第につなげる。 ・図表や資料の効果について考えることをつかませる。	
2	○文章の展開を確かめる。 ・段落に番号をつける。 ・「序論」「本論」「結論」に分け、本論が3つの視点ごとのまとまりであることを読み取る。 ・本論ごとに小見出しをつけ、内容のまとまりを捉える。	・それぞれの本論のはじめに提示された展開がどこまで読んでいるのかを、接続語に注目しながら考えさせる。	
3	○本論1の内容を読み取る。 ・②→③段落を読み、和菓子の年表と本文のつながりを書き込む。	・ワークシートに本文と年表が対応するところを線で書き込ませる。 ・年表では明治時代以降「洋菓子が入ってくる」としてまとめられているが、その後和菓子はどうなったのかを想像し、第7時につなげる。	○筆者の和菓子について叙述を基に、情報と情報の関係付けの仕方について理解している。 〔知識・技能〕 〔態度・ワークシート〕
4	○本論2の内容を読み取る。 ・④→⑤から、和菓子と関わりのある他の文化を書き添く。	・本論2は「和菓子と年中行事」「和菓子と茶道」というように分けることを捉えさせる。 ・文化を書き添くだけでなく、関わっている理由に注目させる。	
5	○本論3の内容を読み取る。 ・筆者の主張を捉えるために、⑥→⑦を読んで、和菓子を支える人を書き添く。	・段落ごとに、誰についての叙述なのかを明らかにさせ、その人々がどのように文化を支えているのかを書き添くさせる。	
6	○筆者の論の進め方について考える。	・②③④段落に注目させ、はじめに全ての視点を示すのではなく、順を追って視点を示す効果について考えさせる。 ・⑤段落の「このように」が本論全体を指すことを捉えさせ、⑥段落の第二文のどの部分と本論が関わるのか考えさせる。	○筆者の主張に至る理由を、歴史・他文化との関わり・それを支える人という三つの観点から、叙述を基に正確に捉えることで論の進め方について考えたり、複数の文章を重ね合わせて読んだりしている。 〔思考力・判断力・表現力〕 〔態度・ワークシート〕
7 （本時）	○本文と資料を重ねて読む。 ・インタビュー記事と本文のどこが関連するのを見つけてみる。	・本論3との関連だけでなく、本論2や結論とのつながりにも気づかせる。 ・インタビュー記事が本文の内容を詳しく説明しているところがあれば、その点も捉えることを捉えさせ、双方の矢印を書き添くさせる。	
8	○単元の学習をふりかえる。 ・筆者の論の進め方について考えたり、インタビュー記事を読み込んだりしたことで、考えが深まったことを書きまとめる。	・第3時から第7時までは振り返らせ、本文と資料を重ね合わせて読むことよさや筆者の論の進め方の効果について具体的に書かせる。	○論の展開について気づいたことや複数の資料を重ねて読むことで分かったことを伝え合おうとする。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 〔態度・ノート〕

第三次



◎資料を読んで、本文とどこがつながるのかを考えることができた。また、表現としての共通点だけでなく、内容としてのつながりについて考える姿も見られた。矢印を書き込む活動にしたため、児童の心理的ハードルを下げられたように思う。

△「つながり」という言葉が何を指しているのか児童によって捉え方が異なっていた。ペアでの交流では、なかなか考えの広がりが見られなかった。

ポイント
ただ矢印を引くのではなく、本文と資料を比較して、具体化と抽象化の関係について理解させる必要がある。そのためにも一つ例示することで活動内容を把握させたい。

課題

児童によって学習活動に対する理解の差があったため、素材的教材研究だけでなく、指導的教材研究を十分に行い、発問で児童に課題意識を想起させ、活動の見通しを持たせられるようにしたい。